

2 感染拡大の経過と対応、患者数の推移

(4) 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は令和元(2019)年12月に中国・湖北省武漢市で初めて確認され、急速に全世界に感染拡大した。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、ウイルスの変異によってウイルスの性質及び疾患の特徴が変化するが、以下のような特徴がある。

ア 症状

発熱、倦怠感、頭痛等の全身症状に加え、咳、咽頭痛、鼻汁などの上気道症状、下痢、腹痛などの消化器症状、味覚・嗅覚障害等の症状を発症する可能性がある。

イ 重症化リスク要因

新型コロナウイルスに感染して重症化しやすいのは、高齢者と基礎疾患のある方、一部の妊婦であり、ワクチン接種を受けることで、重症化予防効果が期待できる。重症化する人の割合や死亡する人の割合は年齢によって異なり、高齢者は高く、若者は低い傾向にある。

ウ 感染経路

感染者の鼻や口から放出される感染性ウイルスを含む粒子に、感受性者が曝露されることで感染する。その経路は主に3つあり、①空中に浮遊するウイルスを含むエアロゾルを吸い込むこと（エアロゾル感染）、②ウイルスを含む飛沫が口、鼻、目などの露出した粘膜に付着すること（飛沫感染）、③ウイルスを含む飛沫を直接触ったか、ウイルスが付着したものの表面を触った手指で露出した粘膜を触ること（接触感染）、である。

エ 潜伏期間

鼻やのどからのウイルスの排出期間の長さに個人差はあるが、発症2日前から発症後7～10日間は感染性のウイルスを排出している。発症後3日間は、感染性のウイルスの平均的な排出量が非常に多く、5日間経過後は大きく減少することから、特に発症後5日間は他人に感染させるリスクが高いことに注意が必要。

また、排出されるウイルス量は発熱やせきなどの症状が軽快するとともに減少するが、症状軽快後も一定期間ウイルスを排出するといわれている。

オ 治療

軽症の場合は経過観察のみで自然に軽快することが多く、必要に応じて解熱薬等の対症療法を行う。ただし、重症化リスク因子のある患者については、経口の抗ウイルス薬や

中和抗体薬の投与を行い重症化を予防する。

カ 後遺症（罹患後症状）

罹患後の一部の患者に、一般的に「後遺症」と言われる、急性期症状の持続や新たな症状の出現、症状の再燃を認めることがある。WHO は「新型コロナウイルスに罹患した人に見られ、少なくとも2カ月以上持続し、また、他の疾患による症状として説明がつかないもの」と定義している。また「通常は発症から3カ月経った時点にもみられる」としている。

出典：新型コロナウイルス感染症（COVID-19） 診療の手引き・第10.0版

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00111.html